

障害者スポーツと企業

報告；日本ディスエイブルパワーリフティング連盟、事務局国際部、吉田寿子



数年前、日本ディスエイブルパワーリフティング連盟に、障がい者雇用支援会社(株式会社つなひろワールド)から日本障害者スポーツ協会から紹介を受けたので、と、電話が入った。

話では、障害者スポーツ選手を雇用したいという会社への就職をあっせんし、彼らが仕事をしながらも、スポーツ競技に専念できる環境を整えたい、ということだった。初めてその話を聞いた時には、そのような、願ったりかなったりの雇用があるものだろうか、と、少々疑問を持ってしまったが、実際に、株式会社つなひろワールドを通して、就職したパワーリフティングの選手は3人いる。

この背景には、労働基準局の指導により、それぞれの企業が障害者を一定の割合で雇用しようとしている現状に加え、障害者スポーツの社会的認知度の高まりということも、大きな要素を占めているのだろう。

オリンピックでも同じだが、知名度の高いスポーツや選手を抱えることで、企業内外へのスポーツへの興味は大きく広がっていく。

アテネオリンピックの時に、I O C (国際オリンピック委員会)とI P C (国際パラリンピック委員会)が今後は、同等の立場で、オリンピックとパラリンピックを開催していくと言う合意がなされ、北京、そして、今回のロンドンと、オリンピックとパラリンピックがまさにパラレル(対等)に開催されている。

私自身は、シドニー、アテネ、北京と過去3回のパラリンピックに監督として、あるいは、審判として参加してきたが、回を追うごとに、周囲の人々の理解や期待が高まってきていることを肌で感じている。

ロンドンパラリンピック、パワーリフティング日本代表となった三浦浩選手は、パークレイズ証券株式会社につなひろワールドの紹介で就職した。

出社は週二回、パークレイズ証券株式会社の業務部での仕事の他、社内に設立されているDCN (Disability Champions Network) Committeeの運営及び活動への貢献、スポーツ選手としての練習が仕事として認められている。

そのパークレイズ証券株式会社で、ワークショップがあると聞き、参加した。

DCN (Disability Champions Network) は、障害者を含む12名が中心となって構成されているそうだ。今回のようなワークショップを企画したり、会社内でメールマガジンを配信したりして、社内における、障害者への理解を深めてもらおうということだそう。

今まで、

第1回視覚障害者を知るためのワークショップ

森綾子さん発表

第2回車椅子利用者への理解を深めるための

ワークショップ

三浦浩さん発表

が開催されているという。

今回のワークショップ「障害者スポーツの世界を知る」というテーマで、発表されたのは、パワーリフティングの三浦さん、車いすバスケット、車いすラグビー、視覚障害者ボウリングの選手の皆さん達5名だった。

聞き手は、社内でワークショップの案内を見て、聴講を希望した社員や、私のように案内をもらって参加した社外の者。

ワークショップでは、障害者スポーツがどのようなものなのか、初めて映像を見た人もおられ、質問をする人もいた。こうして、会社の中での、障害者アスリートの皆さんが、どういう競技をし、何を考え、何を不自由に思っておられるのか、等への理解が深まり、障害者が働きやすい環境が次第に整って行くのだろう。

障害者への理解、それには、こういったワークショップの役割は、大変大きいようだ。

それに、これは、全くの私の感想だが、社員一人一人が障害者への理解を深めることで、その考え方に幅が生まれ、物事を以前より、多様な角度から見られるようになるという側面が生まれるのではないだろうか。言いかえれば、会社にとっても、このワークショップは、優れた人材を育てるという役割にもなっているように思えた。

パラリンピック出場が決まっている車いすラグビーの選手は、仕事をし、練習もでき、今は、生活も精神も非常に安定して、競技に打ち込める日々で、パークレイズ証券株式会社に就職できたことに、大変感謝している、と、話しておられた。

これからも、益々、障害者スポーツの地位が上がり、一人でも多くの障害者アスリートが、競技に打ち込める環境が整うことを心の底から期待したい。

(パワーリフティング競技者で就職などの問合せがございましたら、日本ディスエイブルパワーリフティング連盟までご連絡下さい。042-444-5787パワーハウス内、吉田、メール ; hisako@phouse.jp あて)



パークレイズ証券株式会社セミナー室にて、セミナーを終えたDCNメンバー